

いひければよめる、

から衣きつゝなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞおもふとよめりければ、みな

人かれいひのうへに涙おとしてほとびにけり、

〔拾遺和歌集七名〕かいつばた

とき色かいつばたうすくうつろばん花に心もつけざらんかも

〔枕草子五〕めでたきもの

一の人の御ありき春日まうでえびぞめのをりものすべて紫なるはなにもくめでたくこそ

あれ花もいともかみもむらさきの花の中には、かきつばたぞすこしにくき、いろはめでたし、

〔俳家奇人談上〕山崎宗鑑

山崎宗鑑は、近江州の人、略中或時逍遙院殿實隆へ、宗長諸とも参るとて、常に愛しける烟蘭かきつばたを折

て獻りけるに、卿御覽じて、手に持てる姿を見れば、餓鬼つばたと興じ玉ひけるを、のまんとすれ

ど夏の澤水宗長、蛇に追れて何地かへるらん、鑑が第三なり、

〔東都歳事記二〕四月杜萱カサフ花立夏日め頃より二三木下川浄光寺薬師境内池中八橋吾妻森近年社前の沼に

寺島村蓮花寺、同百花園、根津権現境内池、

〔武江産物志遊觀〕燕子花、根津社内、三圍社内、蒲田新梅屋敷中和、木下川薬師立夏廿二牛

島千駄木坂植木屋

〔多識編二〕縣草蠶實、加岐豆波多、今案俗稱馬利牟、

〔和漢三才圖會九十四本〕馬蘭はれん、劇草、蠶實、豕首、早蒲、馬帚、鐵掃帚、馬薤、馬棟子、蒨

實、三堅、  
本綱、馬蘭生荒野中、就地叢生、一本二三十莖、苗高三四尺、葉似薤而長厚硬、馬牛亦不食、三月葉中抽

蠶實